

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 調剤実績

当第2四半期連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年6月1日 至 平成21年8月31日) (枚)
三重県	162,185
大阪府	50,041
京都府	51,045
山梨県	30,222
神奈川県	29,878
その他	78,817
合計	402,188

#### (2) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年6月1日 至 平成21年8月31日) (千円)
調剤薬局事業	薬剤料	3,119,168
	技術料等	823,828
小計		3,942,997
医薬品卸事業		158,752
ヘルスケア事業		129,965
不動産事業		18,056
合計		4,249,770

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当第2四半期連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年8月31日) (千円)	当第2四半期 連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	1,439,896	31
大阪府	625,749	9
京都府	519,285	8
山梨県	339,359	1
神奈川県	249,396	3
その他	769,309	19
合計	3,942,997	71

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、世界的な金融危機による消費環境の悪化により大きな影響を受けた国内外の景気に、ようやく底打ちの兆しが見えてきたものの厳しい状況で推移いたしました。また、雇用情勢や設備過剰感等は依然として悪化状況にあり、個人消費は将来に対する不安感も重なり低調に推移いたしました。

このような状況の中で、当第2四半期連結会計期間の業績は、コア事業である調剤薬局事業の売上増加が図れたことに加え、医薬品卸事業、ヘルスケア事業、不動産事業とも業績が堅調に推移いたしました。その結果、売上高4,249百万円、営業利益216百万円、経常利益190百万円、四半期純利益95百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、既存店舗が順調に推移したことから、売上高3,942百万円、営業利益279百万円となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の使用促進が進められる中で、売上高207百万円(内部売上高を含む)、営業利益12百万円となりました。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、昨年12月に運営を開始した介護施設も計画通り推移したことから、売上高129百万円、営業利益17百万円となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、計画通りに推移した結果、売上高18百万円、営業利益9百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は11,030百万円となり、前連結会計年度末と比較し982百万円増加いたしました。

流動資産の合計は4,687百万円となり、前連結会計年度末と比較して741百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加580百万円によるものです。

固定資産の合計は6,342百万円となり、前連結会計年度末と比較して241百万円増加いたしました。これは主に建物及び構築物(介護施設等)の増加によるものです。

負債総額は7,954百万円となり、前連結会計年度末と比較して814百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加212百万円、及び長期借入金(1年内返済予定を含む。)の増加529百万円によるものです。

純資産は3,075百万円となり、前連結会計年度末と比較して167百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益201百万円、配当金の支払額48百万円等によるものです。この結果、自己資本比率は27.9%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、第1四半期連結会計期間末と比較して147百万円減少し2,008百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、100百万円となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益188百万円、減価償却費54百万円であり、主な減少要因は、賞与引当金の減少78百万円、売上債権の増加43百万円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、52百万円となりました。薬局店舗とヘルスケア事業への投資によるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は195百万円となりました。主な要因は、長期借入金の純減少額193百万円によるものです。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。